

# 津の海から世界へ！東京2020オリンピック

海上のダイナミックな操艇技術で自然を味方につけて着順を競うセーリング競技。今回の市長対談では、今年7月23日に開幕する東京2020オリンピックのセーリング競技男子レーザー級日本代表の南里研二さんに、オリンピックに向けての意気込みや三重とこわか国体についてお話を伺いました。

**市長** 南里研二選手は佐賀県のご出身で三重県スポーツ協会勤務の後、2018年から百五銀行に所属されて三重県との縁が深まりました。津ヨットハーバーでもトレーニングに励まれ、オリンピック出場の選考レースとなる2019年7月の鳥取県境港市と、2020年2月のオーストラリアのメルボルンで開催された世界選手権でいずれも日本選手トップという素晴らしい成績を収められました。しかし、それだけでオリンピック出場がかなうわけではないのですよね。

**南里** 出場国枠があり、選考指定大

会で、35カ国以内に入った人にポイントが与えられ、出場権が得られます。ロンドンオリンピックとリオオリンピックでは私が日本人トップだったのですが、当時40カ国以上あった出場国枠に日本が及ばず出場できませんでした。

**市長** 今回レーザー級は北京五輪以来3大会ぶりの出場、南里選手にとっては初めてのオリンピックになります。過去2大会で悔しい思いをなされ3回目の挑戦でついにオリンピック出場権を手にしたことで南里さんにとっては特別な舞台なのでしょうね。

**南里** 10年以上オリンピックを目指してきたので、今回出場が内定したときはすごくほっとしました。

**市長** セーリングは世界中で盛んですが、レーザー級の種目についてご

説明いただけますか。

**南里** 1人乗りのレーザー級の船は他の種目と違い全て共通のパーツを使用していることもあって世界中に普及しています。こちらから船を運ばずに現地で全艇新艇をチャーターすることもできるなど、船の性能による差が少ない種目になります。

**市長** 純粋に選手の技量が試される競技なのですね。多くの国が参加するからには、そう簡単には勝てない種目のようですが、過去のオリンピックにおける日本勢の様子はどうでしょうか。

**南里** 20~30位あたりでこれまで10位以内に入った選手はいません。オリンピックに出るからにはメダルや入賞を目指したいですが、まずは日本人初の10位以内には入らないといけないと思います。



東京2020オリンピック  
セーリング競技男子レーザー級日本代表

**南里 研二さん**

NANRI KENJI

1992年佐賀県佐賀市生まれ。小学3年生からセーリング競技を始める。2014年カリビアンミッドウィンターレガッタ優勝。2016年岩手国体成年男子レーザー級優勝。2019年境港開催と2020年メルボルン開催の選考指定大会で日本最上位選手となり東京2020オリンピックの日本代表選手に選考。

競技を見てもらって  
お世話になっ  
て三  
重の  
皆  
さん  
に  
元  
氣  
を  
！

